

靖国 高市氏ら参拝

中国抗議 韓国「遺憾」

終戦の日の15日前、東京・九段北の靖国神社を、高市早苗経済安全保険相や自民党の萩生田光一政調会長らがそれぞれ参拝した。岸田文雄首相は参拝せず、代理人を通じて自民党総裁として私費で玉串料を納めた。高市氏は参拝後、記者団に「国策に殉じられた皆様の御靈に哀悼の誠を捧げ、感謝の思いを伝えてきた」と語った。

萩生田氏は記者団に「先の大戦で尊い犠牲となられた先人の御靈に謹んで哀悼の誠を捧げ、恒久平和、不戦への誓いを新たにした」と説明し

た。超党派の「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」の衆参議員67人も集団で参拝した。

靖国神社には、極東国際軍事裁判（東京裁判）で「A級戦犯」とされた14人が合祀されており、中国や韓国が閑僚らの参拝を問題視している。

（川辺嘉政、多湖清子）

◇

中國外務省の汪文斌副

報道局長は15日の定例会見で「靖国神社は日本の軍国主義が侵略戦争を発動した精神的な手段であり、象徴だと指摘。「日本側の歴史問題に対する誤った態度をまたしても映し出した」と批判した。日本側へ敵意に抗議した」という。

また韓国外交省は15日、「深い失望と遺憾を表明する」とする報道官の論評を発表。日本の政治家らに「歴史を直視し、過去の歴史に対する謙虚な省察と眞の反省を行って示す」よう求めた。